TNVN network news
東京日本語ボランティア・ネットワーク
2007.12.14発行 No.60
〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1☎03-3235-1171(呼出) 東京ボランティア・市民活動センター メールボックスNo.4

日本語ボランティアは日本語学習者とどう接しているか

前号、前々号（No58, No59）では学習者の皆さんの学習への思いや意向について紹介をしました。今回は、日本語教室に来る学習者の皆さんに対し、日本語ボランティアはどのような気持ちで接しているのかを、何人かのボランティアの方々からのルポを交えてお伝えします。私たちボランティアは日常いろいろな人と会話を交わしますが、その都度の会話にはその時々の状況（時・場所・場合）によって、様々に変化した言葉を使用しています。

ボランティアは学習者の鏡？

初めて日本語に接し、日本語を勉強する学習者は学習意欲が旺盛であり、日本人との一日でも早い会話、コミュニケーションを期待し、ボランティアの一言ひとことをもらさず吸収しようとします。そのため、ボランティアの発する言葉や発音を率直に受け止めるため（言葉の乱用・誤用も含めて）、学習内容に誤解を生じることもあります。

とりわけ、私たちボランティアが日常話す口語は、外国人が学習する「教科書（テキスト）日本語」と幾つかの点について異なっています。

例示的に比較して列挙してみると、

① 教科書文型＝「私はボランティアです」と「私はラーメンです」
② 男ことばと女ことば＝「とても良（い）い」と「とても良（い）いわよ」、「酒」と「お酒」
③ 略語＝「秋葉原」と「アキバ」、「携帯電話」と「ケイタイ」
④ 俗語（隠語含む）＝「うざったい」「うざい」
⑤ 感情的表現＝特に怒ったときの「バカ！」、「すごい！すごい！」「スゲエ！スゲエ！」
⑥ スピード口調
⑦ 方言（関西弁・東北弁等）＝「では」と「ほな」、「御前（おんまえ）」と「お前」
⑧ 敬語（含む美化語）＝「ビール」と「お ビール」、「私の母」と「私のお母さん」

等、これらについてはその都度違いを教えることができますが、ボランティアとして使用していないかを振り返る必要があります。

悩ましニュアンス・アイマイ表現・若者ことば

しかし、ボランティアとしてごく普通に使用している言葉（それじゃ、では、またね等）のあいまいな表現などは際限がありません。また、日本語乱れの象徴とされる若者ことばの「めちゃ」「まじ」「ヤバイ」「ダサイ」等の意味不明な言葉も、ともすれば学習者との親近感を深める手段として、活用？されていることもあるようです。

語尾に「ちゃっ」をつけた話し言葉もあります。「しなくっちゃっ」「起きなくっちゃっ」「食べなくっちゃっ」本当にいろいろあります。

「すみません」＝この言葉の使い方の教え方はニュアンスが大変むずかしいのですが、中国の人は同じ言葉を二度も三度も使わないそうです。日本ではこの言葉はいろいろな形で使われます。謝罪やあいさつ、会釈、問いかけ等とても調法です。しかし、安易？に使われすぎるためか、言葉に「心」が感じられないと思うこともあるようです。

コミュニケーションは、「ま＝間合い」「き＝気持ち」「ば＝場」流で

日本語は言葉のはざ間に感情が入ったり、微妙な言い回し、間合いがあります。こうしたニュアンスの内容を教えるのは大変な難しさがあります。あるべきマニュアル（正解）はないのかもしれません。言葉は生活の匂いや仕事の匂いから生み出されてくるとされていますが、生活や仕事はそれぞれの国の文化です。日本語ボランティアは学習者のみなさんが日本語と日本文化の理解を深められ、コミュニケーションについて、困惑することが少なくなるように支援をしようと考えています。

（編集部　M.I.）

漢字の話

寄稿

日本大学　准教授　福田 知行

漢字には様々な側面があります。一般に「形（字形）・音（読み）・義（意味）」と言われますが、そのなかで読みと意味との関係について普段の生活では気が付きにくいことを少し述べてみたいと思います。

ふつう、一つの漢字には少なくとも音読みと訓読みの2つの読み方がありますが、訓読みが2つ以上あるときはそれぞれの訓読みに異なる意味が対応しています。これは、そもそも訓読みというものが漢字の意味の違いに対して付けられた日本語の訳なのですから当然のことだと言えます。それに対して、音読みが2つ以上（ふつうは「漢音」と「呉音」）ある漢字の場合、それぞれの音読みに対して違う意味が対応するかというと、一般にそういうことはありません。しかし、漢字によっては音読みの違いが意味の違いに対応している場合もあります。たとえば、「行」という漢字は「文章の行数」という意味のときは呉音で「ギョウ」と読み、「銀行」という意味のときは漢音で「コウ」と読むため、「数行」と書かれたものは「スウギョウ」と読むと「行数」の意味になり、「スウコウ」と読むと「銀行」の意味になります。また、「人」という漢字は出身地を表す接尾辞の場合は「ジン」と読み、人数を表す助数詞の場合は「ニン」と読むため、「何人」書くと「なにジン」と読むときと「なんニン」と読む時では意味が違ってきます。それ以外にも、「作」は「作る」という意味のときは「サク」（たとえば「工作」）、「行なう」という意味のときは「サ」（たとえば「動作」）になりますし、「殺」は「殺す」という意味のときは「サツ」（たとえば「自殺」）、「減らす」という意味のときは「サイ」（たとえば「相殺」）になります。

漢字の読みと意味の関係は、熟語（複合語）になると事情はさらに複雑になります。つまり、2つの漢字の組み合わせだけでもそれぞれが音読みと訓読みの2つの読みがあると4通りの読み方があるわけです（音読みだけでも「漢音」と「呉音」の違いがあるので、理論的にはかなりの数の組み合わせになります）。普通は ① 音読みと音読み、② 訓読みと訓読みの組み合わせが多いのですが、③ 音読みと訓読み、④ 訓読みと音読みの組み合わせも少数ながら結構あります。従来、③を「重箱読み」と呼び、④を「湯桶読み」と呼んで注意を喚起してきました。たとえば、「風車」は ①「フウシャ」と②「かざぐるま」という2つの読み方があり、それぞれ違うものを指しますが、一般に音読みは近代的で大きなものというニュアンスがあり、訓読みは伝統的で小さなものというニュアンスがあります。そのほかの例を挙げると、「場」という漢字がほかの漢字と組み合わされた場合、「工場」は ①「コウジョウ」と ③「コウば」（重箱読み）、「市場」は ①「シジョウ」と ②「いちば」、「牧場」は ①「ボクジョウ」と ②「まきば」など、いろいろな読み方の熟語を作りますが、やはり音読みにすると近代的・大きなもの、訓読みにすると伝統的で小さなものになります。この場合、「作業場」（サギョウジョウ／サギョウば）のような例を見ると、前に来る漢字の読みは全体の意味の違いとは直接関係がないようです。

教材

「地域密着型教材」の試み

町田日本語の会（町田市）

「町田日本語の会」のHP
http://www.ric.hi-ho.ne.jp/hidakayo/machida/machida.html

日本語ブームの昨今、外国の方に日本語学習のサポートをするボランティア・グループは数多く、そこで使われている標準的な教材（教科書や教え方の参考書）も沢山あります。

しかし、学習者が居住している地域の行政や公共施設、住民生活に直結した「話す」「見る」「聞く」言葉（日本語）を取扱った、いわゆる地域密着型の教材は、その独自性もあってか、あまり見られません。学習者の殆どの方はその地域で暮らしています。したがって習う日本語も、そこで使われてこそ役に立ちます。そのような思いから本書「まちだでせいかつ」（約60ページ）の編纂を試みました。

「町田日本語の会」は、町田市及びその周辺に生活する外国人を対象に14年前に発足し、現在毎週5クラス（月水木土）開催、50～60名の学習者を20数名のボランティアでサポートしています。共通の教材は、「みんなの日本語一初級Ⅰ、Ⅱ」です。

編纂に当って留意したことは以下の通りです。

(1) 取り上げたテーマは、学習者から、実際に「町田」に住んでみて「困ったこと」「聞きたいこと」のアンケートを取り、その中からピックアップしました。アンケートは、ボランティアが各クラスで学習者から直接ヒアリングを行ないました。結果、延30名近くから様々なテーマ（というより問題）が出てきました。今回はその中から次の5つを取り上げました。

① 病院、医者、薬局での会話
② 町の中の漢字・カタカナ（広告案内、道路標識など）
③ 町田市公共施設（体育館、遊園地）の利用
④ 電話の応答（クラスの出欠連絡、勧誘セールなど）
⑤ 交通機関（町田駅からの電車、バス）の乗り方

(2) 各テーマの会話文（場面設定）は、日々の生活の中でやりとりされている自然体の日本語を取り入れ、出来るだけ実際の「生（なま)の会話」に近いものにしました。従来から学習者が、日本語が解らないために困ったこと、失敗したこと等は、どのクラスでも話題になり、その都度ボランティアが相手のレベルを勘案しながら、説明したり助言したりしてきました。しかし実際問題として、日常生活で接する日本人は、相手の日本語のレベルに合わせて話してくれるわけではありません。「生の会話」が飛び込んで来ます。

本書では、それを極力、そのままの形で取り込みました。

したがって会話文には、「みんなの日本語一初級Ⅰ、Ⅱ」の学習レベル（各課）に出てくる様々な文型や単語、言い換えれば、すでに習ったもの、まだ習っていないものが混在して使われています。そのため夫々の文型や表現が何課に出てくるか、学習レベル参照のため、脚注として併記しました。

(3) また、会話文に登場する人物は、それぞれの設定場面の中で職業や年令、男女別によって異なるのは当然ですが、外国人（学習者）のレベルについては、大体「みんなの日本語一初級Ⅰ」第20課前後のレベルを想定しました。

本書の作成は2005年の10月に着手し、原稿（案）を作っては編集会議（クラス長会）で討議し、約2年掛りで本年7月に出来あがりました。しかしこれは完成品ではありません。本書が「町田日本語の会」の副テキストとして、効果的に使われるためには、まだまだ試行錯誤が必要でしょう。

「言葉は生きもの」です。各クラスでの実践を通じて、より良いものにしていきたいと考えております。

(文責：遠藤竹二)

区の日本語ボランティア教室のネットワーク化
ボランティアのねりま

練馬区総務部文化国際課国際交流係　**倉田　広**

倉田さんは写真左端です

「国際交流係はボランティア日本語教室に対してあまり熱心ではない。」

「近隣他区市と比べて、練馬区の国際交流係は教室との協力がない。」

二つとも、ちょっと前にボランティアの方から私どもの係へ投げかけられた言葉です。申し訳なく思うとともに、きっとボランティアの皆さんは私たちと力を合わせて頑張るために、激励してくださっているのだろうと受け止めています。

練馬区では、二十年ほど前から練馬公民館で「日本語を教えるための日本語講座」を開催してきました。毎年大変な人気で、数倍の抽選をくぐり抜けた方々が参加し、6ヶ月にわたる厳しい訓練を受けて来られました。現在練馬区で活動しているボランティア日本語教室の多くは、この講座の修了生が中心となっています。そのほか、中国からの帰国者の支援を目的とした団体や、小中学生を対象とした学生の団体など、様々な個性を持った教室が区内各地で活動されています。区内のボランティア活動の全てを把握しているわけではありませんが、私どもと連絡を取り合っている教室は、今では18にまで増えました。

区の主催事業でも、「初級日本語講座」と「こども日本語教室」を開催しています。「初級日本語講座」は4〜6ヶ月で修了してしまうので、その後はボランティア教室へ通う方が多いです。「こども日本語教室」では、教えることも教室の運営も、ほとんどボランティアの皆さんが行っています。

ボランティア教室から寄せられる要望のひとつに、「講師の不足を補いたい」ということがあります。「教えるための講座」に参加された方は、修了直後にどこかの教室に入らないと、それ以降は連絡が取れない状態になっていました。そこで「講師を探している教室」と「ボランティア活動をしたい人」をつなぐことを目的に、平成16年に「日本語講師ボランティア」の登録制度をスタートしました。区報で募集のお知らせをしていることもあり、専門学校で学習された方や海外での指導経験のある方など、公民館の講座修了生以外の方も多く登録されています。時間帯や活動場所の遠さなどでうまくマッチングできないことも多いですが、国際交流係の仲介で活動を始めた方も増えてきています。

同じような課題を抱える教室同士では、連携して課題を解決しようとしています。これまでにも一部の教室による「連絡会」が設けられ、年に数回の情報交換をされてきました。これとは別に、新たに全ての教室のネットワークを作り、共通する問題に取り組もうとする動きが始まっています。これは“行政”が言い出したことではなく、ボランティアの皆さんが“自主的”に始められたことです。毎週の授業を続けることだけでも大変なのに、何て積極的なことでしょう！

これほど活動的なボランティアの皆さんから見ると、ごく少数の職員で切り盛りしている国際交流係は“頼りない”と思われることでしょう。でも、お互いの協力関係が深まっていけば、きっとそれぞれの長所を活かして発展させることが出来ると思います。「練馬のボランティア日本語教室の活動はすごい！」と言われるよう、支援活動を充実させていきたいと思っています。

※練馬区では1989年9月から2006年3月まで、「練馬区国際交流協会」が各種の国際交流事業を実施していました。現在は練馬区総務部文化国際課が協会の事業を引き継いで実施しています。

＊日本への卒業論文（日本で暮らして）＊

ガブリエル・マクマーン
（オーストラリア）
港区

たった今、８年も日本で暮らしていることに気づきました。

ロータリー団体の日本での一ヶ月ビジネス見学交換が、人生のターニングポイントになりました。よく説明ができないけれども、オーストラリアに帰ったときにすぐ日本に戻らなくちゃと思いました。やっぱりその一ヶ月の経験は私にとってすばらしい影響があったのです。以前は、日本に行きたいと思わなかったんです。逆に、日本が私を選んだんです！　縁があると言うことかもしれません。

そして、日本に向かう飛行機に乗る前に「３ヶ月で戻るよ」と家族や会社に言ったのに、今日はこの文章を書いています。日本に住んだら、日本の企業でマーケティングの知識を活かしたらいいかな、と目標を設定しました。とにかく、日本では遊びたいと言う気持ちではなくて、ビジネスに挑戦をしたいと思ったんです。

日本に来た時「行きましょう」しか言えなくて、日常生活はちょっと難しかったです。回りの日本人とホームステイの家族に日常生活の先生になってもらって感謝しています。そのおかげで、自然な日本語とマナーを身につけました。社会人として当然な事をやさしく教えてもらって、自信を持つ事ができました。今考えれば日本人の考え方がちょっと分かるようになって感謝しています。

ボランティア日本語教室で先生に友達として熱心に教えてもらいました。お互いに考え方を分かるようにたくさんの時間を過ごしました。先生たちの大切な時間をもらって、下手な日本語を直してもらって、感謝しています。

日本に住んでいる間に色々ないい経験をしました。岩手県、神奈川県と東京都で暮らして、ほとんど全国を旅行して、どんなところに行っても日本人が心を開いてくれて、楽しい旅行が出来ました。道が分からない時、どんな人に聞いても手伝ってくれました。ある人に地図まで書いてもらって、目的地まで一緒に連れて行ってもらいました。

ビジネスでは小さい会社から大企業まで日本の会社を経験しました。どこの会社でもお客さんを大事にする事が印象に残ります。日本人は自分より相手の事をいつも考えています。たとえば、電話をかけた時に「今大丈夫ですか」とか「今お忙しいですか」とか相手に聞きます。いつも会社では「おはようございます」「お疲れ様」それからお店に入ると「いらっしゃいませ」近所の人は「おはようございます、いってらっしゃい」と挨拶してくれるから日本人の心は温かいと感じています。自分の家だけではなくて隣も掃除しているし、ゴミをきれいにしています。すばらしいです。

前より食事にちょっとうるさくなって、毎日食べる事をとても楽しみにしています。お豆腐とご飯が大好きです。日本人は「いただきます」と「ご馳走様でした」と言って、気持ちを入れて本当に料理を作ってもらうことに感謝しています。

８年間を反省して、やっぱり日本で社会人になって、色々な目から見ても成長して来た事が忘れられないです。今年いっぱいでオーストラリアに帰ります。家族とゆっくり過ごして、次の人生のステップを作りたいと思います。日本と日本人のおかげで私の人生を形作る（Shape my life）事が出来て非常に感謝します。ありがとうございました。

でも、また近い内に日本に帰ります。

nice to meet you

簡単な日本語は話せるけれど、もっと上手になりたい人
日本語を勉強したけれど、まだちょっとよくわからない人
日本語は話すけれど、字を勉強したい人

あとむ日本語教室

代表 小笠原 みちよ（新宿区）

日本語の学習をしていると、「神社での参拝はこうするんですよ」と飛び入りの『先生』が時々教えてくださる事もあるのが、高田馬場駅の近くにある「あとむ日本語教室」です。

その『先生』は在日外国人情報センターの職員の方達です。「あとむ日本語教室」は在日外国人情報センター(ICFJ)の一角をお借りして、教室形式で学習しています。

初級は終わったけれど、もっと日本語を勉強したい人のお手伝いができたらと「あとむ日本語教室」を作りました。

1クラスの定員は9人、1クラス平均4～5人です。こじんまり、和気あいあいとした雰囲気での学習です。時には脱線して、思わぬ方向に話が進んでしまうこともあります。

ICFJとはロッカーで間仕切りしているためお互いの音は聞こえますが、それが良い方向に働くこともしばしばで飛び入りの『先生』となるわけです。さらに授業の[寄席]を学習していましたら『先生』の知り合いの落語の師匠に声をかけてくださり急ごしらえの寄席を開きました。学習者に落語の面白さがわかって楽しんでもらえるかの心配をよそに笑いの渦の中に引き込まれていき、後日、本物の寄席に行った人もいるぐらいでした。

教室での火・木の日本語・漢字の学習の他に日本舞踊、歌舞伎展、お茶会、着物を着てのひな祭りと日本伝統文化をたのしく体験してもらっています。

会　員　団　体　紹　介

Nice to Meet You

nice to meet you

日本語教室を通じて国際交流を

フレンド日本語教室

代表 大野 京子（板橋区）

「フレンド日本語教室」は、1992年カトリック板橋教会でスタートし、現在は、ハッピーロード大山商店街“ハロープラザ”で活動をしています。

日本語教授法を習得した日本語教育の専門家を中心に、ボランティアの方と共に、外国人の方々へ日本語を教えています。昨年度は、16カ国75人の外国人の方々が日本語教育の授業を受講されました。

今までに、様々な目的で「フレンド日本語教室」で学ばれた学習者は、アジア、アフリカ、中東、欧米等総計は900人以上になりました。

「フレンド日本語教室」は、日本語教育はもとより外国人ゆえの、日常生活上の相談（業務上の悩み、国際結婚、難民支援）など多岐に及ぶ国際交流の場としての役目も果たしてまいりました。

これら今までの活動を評価され、板橋区文化国際交流財団から“平成16年度「国際交流奨励賞」”をいただきました。

これからも「フレンド日本語教室」は、外国人の方々の日常生活の利便向上をはかり、住みよい街づくりと更なる国際交流を推進していきたいと思います。

日本語学習を希望する方、また日本語教授のお手伝いをしてくださるボランティアの方を常時受け付けておりますので、“フレンド日本語教室事務局”まで遠慮なくお申し出ください。

連絡先　：フレンド日本語教室
加藤　茂美
E-mail　：s-katou@m3.gyao.ne.jp

日本語ボランティアの現場から

学習者の声

日本語のボランティア教室について

張賢基（チャン ヒョンキ）／韓国
早稲田奉仕園日本語ボランティアの会
（新宿区）

私が日本に来て驚いたのは、韓国より日本の方々の方がボランティア活動が盛んなことです。もちろん、若い先生も多くいますが、年輩の先生の活動は目を見張るものがあります。年輩の方々は今までの自分の経験したことと、自分の感じたものをうまく混ぜて、外国人の学習者にスムーズに教えてくれました。まだ日本語が未熟な学習者には一人ずつゆっくりと、或いは絵を描きながら親切に説明してれました。

ボランティアなのに、自分の時間をかけて外国人を助ける姿を見ていると素晴らしいと思いました。何よりもありがたいのは、いつも笑顔で怒ることもなく、一言も怒鳴ることもなく、誰かの役に立とうとして、また生きがいを持って熱心に教えてくれました。

生徒の日本語のレベルはそれぞれで、その場に合わせて教科書を選んだり、インターネットから最近のニュースを選んだり、色々なフリートーキングをしたり、夢中になって伝えてくれました。

日本の伝統的な文化であるお茶会では、本場の茶道を身につけることができました。茶道を教えてくださる先生のお宅は、静かで俳句を詠みたくなりました。また、ある日には防災訓練も行い、非常時にはすぐに役に立つ訓練を体験しました。　今まで約2年間お世話になって感じたことは、ボランティアの方々は高齢な人たちも多いので、健康面にも気を配って、一日でも長くボランティアを続けてもらい、外国人学習者の日本語習得を助けて欲しいと思っています。

張さんは写真右から2人目

TNVNからのお便り

TNVN出前講座 所沢へ行く

日本語ボランティア不足に悩む市内の日本語ボランティア団体の要請によって、所沢市教育委員会社会教育課の方が出前講座のご相談にみえたのは6月末でした。

それから、市内の団体と社会教育課、社会教育課とTNVNとの数回の話合いを経て、今回の講座目的「地域に居住する外国人の日本語学習支援活動をするボランティアを育てる」に沿って、以下のようなプログラムで、10月から11月にかけて「日本語を教えるボランティア養成講座」が実施されました。

1…オリエンテーション・日本語を教えるボランティア活動とは？
2…日本語学習支援の方法 ①
日本語が比較的話せる学習者への対応のしかた
3…市内日本語ボランティア団体との交流会・団体運営で困ったことがおきたら？
4…日本語学習支援の方法 ②
日本語があまり話せない学習者への対応のしかた
5…言語指導について
～練習の効果や達成感とは何か～
＊希望日に市内日本語教室を見学

講座は所沢市役所8階の見晴らしの良い大会議室で開かれ、講師役はTNVNスタッフ2名に外部講師2名。参加者（50名余）は、講師の話を聞くだけでなく、グループで話し合ったり、部屋を動き回って体験したり、市内団体の方々に活動状況を聞いたり、各教室を見学したりしました。

所沢市では「所沢インターナショナルファミリー（TIF）」、「外国人のためのにほんご勉強会」、「金曜にほんご教室（JSL）」、「新所沢東公民館日本語教室」、「ICN」の5団体が7教室を開設、市の5施設で活動しています。この5団体が社会教育課に協力し、今回の講座を運営する大きな力となっていました。

（R.H.）

NETWORK INFORMATION

●「ボランティア日本語教室ガイドTOKYO 2007」冊子発行の作業状況

先号（59号）に引き続き冊子発行作業の進捗状況をお知らせします。

調査表の回収が手間取っていましたが、11月の時点で関係する団体からの回収もほぼ終わり、データの整理を行っています。現時点で185団体教室のご協力を得ました。

現在冊子に掲載するレイアウトを作っています。これを各々の団体・教室にメール又は郵送でお送りし、掲載内容の確認をお願いします。お手数ですがご協力をお願いします。

新しい冊子発行についてお問い合わせが届いています。来年2月には印刷し、発送出来るよう作業を進めます。今暫くお待ち下さい。

またご回答のあった調査表のデータは取りまとめて別途報告致します。都内の日本語ボランティア教室の現状がそこから読み取れると考えます。

「日本語教室ガイド」は日本語学習の場を求める人々への教室情報提供として広く活用を戴き、喜ばれています。教室開催場所に行き着くには会場の住所が欠かせません、地図を冊子に載せるにはスペースと作業面で不可能です。幸いインターネットでの地図検索が容易に出来るようになっています。

●冊子発行に合わせ
TNVNホームページ上での教室検索で地図の表示を検討しています。

本冊子は性格上、関係先に限定し配布していまが、目的外に使用され関係施設や関係者にご迷惑をかけているため、教室開催場所の住所は一部または全部を削除せざるを得なくなっています。これをTNVNホームページで地図検索をして貰えればと願っています。

■ニュースレターの記事をお待ちしています

ニュースレターは3ヶ月毎に発行しています。団体・個人にかかわらず、日本語学習支援・日本語ボランティア活動に関する意見・紹介・情報などの記事を是非お寄せ下さい。掲載記事についてのご意見・ご希望も歓迎します。

TNVN NL編集担当宛にお送り下さい。

■TNVNスタッフ募集！！

TNVNの事務局スタッフ･ニュースレター編集員となって現スタッフと一緒にボランティアでご協力いただけませんか。TNVN事務局までご一報をお待ちしています。

■TNVNへの入会をお待ちしています

詳細はTNVN事務局まで「活動･入会案内」を郵便でご請求下さい。（送料90円切手同封）

Column

❖ インドのことば

インド公式統計での母語数（含む方言）は、1683語、日常言語数は850語との事。この多言語国家はどのような影響を醸し出しているか？　多言語とは、ある意味で民族間の対立を生む。己の民族への帰属意識が強く、時には優越性の先鋭化という新たな摩擦を生じさせる起因ともなる。ここで「民族」は、「州」と置き換えることが出来、州はむしろ国家と言い換えてもよい。これがインドの姿であると言える。この多言語国家という宿命からか、インド人はバイリンガリアンであることに、なんら違和感を持たない。2か国語どころか3か国語を使い、州の母語とヒンディー語、英語を話す。従って日本語を習得するのに極めて短時間に、早い人では3ヶ月、普通6ヶ月で会話を習得してしまう。発音もどちらかといえば、中国人や韓国人よりも癖が少ない傾向がある。インド人がITに強い理由もここら辺にある？　これが当会で日本語を教えている際に感じた感想であります。

（M.S.）

東京日本語ボランティアネットワーク事務局

TNVN東京日本語ボランティアネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVNの会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通し、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

◆日時：毎週金曜日
第1、第3、第5 金曜日／午後2時～4時
第2、第4 金曜日／午後2時～6時

◆場所
東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄（東西線・有楽町線・南北線・大江戸線－出口B2b）飯田橋駅下車
セントラルプラザビル　10F ロビー

◆日本語ボランティア相談窓口
日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフがお応えしています。電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えしています。
ご意見もお待ちしています。

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス　No.4
●TEL：03-3235-1171
（呼出：金曜日活動時間帯のみ）
●FAX：03-3235-0050
●E-mail：webadmin@tnvn.jp
●URL： http://www.tnvn.jp/
●郵便局払込
口座番号：00100-1-719259
加入者名：東京日本語ボランティア・ネットワーク

●会員数（2007年11月16日現在）
正会員：79団体　協力会員：38名
賛助会員：4団体

●編集／岩佐 幹彦、大木 千冬、岡田 美奈子、小川 伶子、梶村 勝利、床呂 英一、林川 玲子、福井芳野
●レイアウト／鶴田 環恵